

- 会長/山田 文雄 ■幹事/小平 直史
- ◆司会=北川 和彦SAA、合田 敦子副SAA
- ◆ゲストビジター=なし
- ◆出席報告

本日	52.94%	24名欠席
前回訂正	80.39%	10名欠席
前々回訂正	82.35%	9名欠席

◆ラッキーナンバー=No. 30 小平直史君

◆ニコニコボックス=●山田文雄君・小平直史君=会員増強の進捗は順調です。関係者に御礼申し上げます。良い仲間恵まれます様に。●吉越潔君=本日は会報・雑誌・広報委員会の担当です。宜しくお願いします。●菊池俊樹君=いつもお世話になっています。●八幡一成君=遅くなりましたが、皆勤賞をいただいて。●小平直史君=ラッキーナンバーに当たって。

◆会長告知・山田文雄君=本日の会長告知はチャーターナイトに付いてお話しします。諏訪ロータリークラブは1957年6月27日にRIへの加盟が承認され、認証状伝達式と祝賀会(チャーターナイト)は翌年4月28日に諏訪二葉高校の講堂で行われた事をご存じの通りです。さてその32年前、京都RCのチャーターナイトの様子を紹介したいと思います。以下「歌うクラブは良いクラブ」から引用します。副題として「癪は3日経っても収まらない」とあります。一般的にロータリークラブの設立は次のような順を経る。先ず地元の有力者が集まり、ロータリークラブの創立を決議する。彼らはチャーターメンバー(創立会員)と呼ばれる。創立会員は、ガバナーを通じ、シカゴの国際ロータリー(RI)の理事会にRI加盟の申請を行う。RI理事会が加盟を承認すると、当該クラブはRIの構成単位クラブとなる。RIはチャーター(加盟認証状)を発行しガバナーに送付する。当該クラブはガバナーから加盟認証状を受けるため(伝達)、ロータリー関係者、地元有力者、会員家族などを招いて認証伝達式を行い、通常、その日の夕刻、祝賀会を開催する。この伝達式と祝賀会を一般にチャーターナイト(Charter Night)と呼ぶ。京都RCはチャーターメンバー(創立会員)25人により1925年9月25日創立される。会長に武田五一が選ばれる。10月7日付でRIに加盟申請を行い、10月24日に鶴首していたクラブ承認の電報がシカゴから届いた。「さあ、そうなると会員一同は一日も早くチャーターナイトを催そうと沸き立った」。しかし航空便の無い時代で、チャーターが届くには相当日数もかかるので、それが張り切った会員に待ちきれなかったのであろう。東京、大阪、神戸、名古屋の先輩クラブに招電を飛ばし、4日後の1925年10月28日に、創立「披露会」を催すことにした。チャーター(認証状)の伝達は無くチャーターナイトではない。しかし気分はチャーターナイトであった。京都RCの会員は、全員紋付羽織袴のいでたちで披露会に臨む。さすがは都人と頷かされる。会費は10円であった。東京RCの米山梅吉、井坂孝会長ほか3人、名古屋RCの2人など、来客20人が出席した。大阪RCからは会員総数48人中9人が出席し友情の篤さを示した。晚餐は、夜8時に始まると案内される。前例のない非常に遅い時間であるが、東京RCの出席者の列車到着時間が考慮された。食堂は、

ようやく8時を過ぎてから開かれた。着席して遠路から参加する客が次々と紹介される。ところが大阪の9人は一向に紹介されない。9人の腹は食事前の空腹ながら踊らざるを得なかった。東京RCの米山が立ち上がり演説を始めた。演説は1時間余りにわたり、さすがの都人もうんざりする。話はいささかの進展もみせず、同じことを三度五度繰り返す、秋の夜は如何に長いとは言え、円周の上を走っている感があり、時間は容赦なく過ぎる。コックは焦れる。給仕人は茫然とする。早寝の老人は尚更堪らない。米山はなおも続けて「ロータリー精神は己の欲するところを人に施せというに尽きる」と言う。大阪RCの会員は夜10時半の汽車に乗らねばならず、苛々し続けたが、施しも過ぎたるは及ばざるが如し。米山の演説終了早々席を立った。大阪RCの9人の癪は、翌日、翌々日になっても収まらない。会費の10円は高価すぎ、富豪階級の濫費に過ぎない。ロータリースピリットに鑑み、2円で充分と論じる。さらに、当日パーティーの後、別座にて芸者を座に侍らせ酒を飲んだと聞き及び、もつてのほかと憤る。こうして京都RCは気がはやってチャーターの到着を待ちきれず披露会を派手に挙行し、そのためか12月24日に改めて開催された肝心のチャーターナイトは低調であったとか。今日の会長告知は以上とします。

◆幹事報告・小平直史君=①本日の例会は、ロータリーの友特別月間です。会報・雑誌・広報委員会の吉越委員長宜しくお願いします。②9月のロータリーレートは1ドル=146円となります。③姉妹クラブ秦野RCの会長・幹事他全4名が、9/29の例会に出席されます。④今後のイベント予定ですが、10/5(木)8:30より諏訪市小中学校図書・プロジェクター贈呈式を豊田小学校で行います。10/15(日)ロータリー奉仕デー・諏訪湖清掃を諏訪湖RCと合同で行います。10/22(日)諏訪Gポリオデー・チャリティーコンペを三井の森蔦科ゴルフクラブで行います。11/12(日)地区大会を松本キッセイ文化ホールで行います。⑤RI事務局より川村会員に、マルチプル・ポール・ハリス・フェロー1回目のバッチが届いております。後ほど、山田会長より伝達授与していただきます。⑥本日、例会終了後、定例の理事会を開催いたします。メンバーの皆様はお集まりください。

◆委員会報告・親睦委員会・平林明君=同好会のゴルフコンペの開催通知を皆さまにお送りしました。9/15までにご返事をお願いします。日時は10/1AM9:00より諏訪湖カントリークラブで行います。参加費3,000円となっておりますので多くの方に参加頂きたいと思っております。

◆委員会報告・青少年奉仕委員会・平林正光君=先日メールでご案内しましたが、9/30に諏訪ローターアクトクラブ主催のバーベキュー親睦会が伊那で行われます。現在4名の方が出席予定です。大勢の方が出席し会を盛り上げたいと思っておりますので、出席される方は本日中午に平林までご連絡下さい。

◆セレモニー
●ロータリー財団マルチプル・ポール・ハリス・フェロー
=川村総一郎君(1回目)



◆クラブフォーラム・ロータリーの友特別月間
●吉越潔会報・雑誌・広報委員長=9月はロータリーの友特別月間となっております。毎月月間テーマが設定されている中、

2015年より日本独自に設定されたオリジナルな月間テーマで「友」を推進し「友」の利用法について話し合う月となります。RIの発行する「The Rotarian」、またRIから認可された各地域で発行される雑誌を購読することがロータリークラブの会員に義務付けられています。日本では「ロータリーの友」がRIから認可された地域雑誌となっております。1980年7月号から正式にRI公式地域雑誌(現、ロータリー地域雑誌)に指定されました。現在「The Rotarian」を含め31の地域雑誌が発刊されており、すべての雑誌を総称し(ロータリー・ワールド・マガジンプレス・Rotary World Magazine Press)と呼ばれています。国際ロータリー(RI)に認可を受けるために①毎月掲載しているRI会長メッセージや、財団管理委員長メッセージなどのほか、国際大会参加推進の記事、会長エレクトのQ&Aなどが掲載されています。②RIの方針、方向性への理解が深めるような記事を掲載しています。③年に6回以上発行すること。④ロータリーの友は、ロータリーの機関雑誌ですが、その内容はロータリーのことだけではありません。ロータリー活動と奉仕の枠組みとなる文化的、倫理的、道徳的な問題を取り上げることで、読者の視野を広める記事も提供しています。⑤読者が印刷媒体か電子媒体を選択できること。⑥RIの資金援助を受けずに経済的に自立することが、「ロータリー章典」に地域雑誌の定義として明記されております。毎月、RIが掲載を指定する記事には、会長メッセージ、財団管理委員長メッセージ、国際大会の参加推進記事があります。指定記事には、地球儀にRIと書かれたロゴを表示しています。世界中のロータリアンが読んでおくべき内容なので、ぜひお読みください。そのほかの条件として、現在、7月号にはRIから配信される新会長の写真を使うことが機関雑誌として決められているのですが、RI会長の写真が最初に表紙に使われたのは、1979年。夫妻で表紙を飾ったのは1990年です。ロータリーの雑誌の購読が義務付けられたのは、1977年の規定審議会です。ロータリーの友がRIから公式地域雑誌として承認を受けたのが、1980年なので、この時期に前後して、RIの情報が多く掲載されるようになりました。ロータリーの友は、国際ロータリーのオフィシャルな情報を掲載しつつ、創刊当初の目的である国内のロータリアンの情報交換や親睦を深めるような記事の掲載を続けています。さて、ロータリーの友の今年度8月号以降の表紙は、昨年度に引き続き障害のある人が創作した作品で表紙を飾っていきます。ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン、DEI(多様性・公平性・包括性)の推進に取り組むロータリーの方針を表現したものです。ロータリーの友の大きな特徴として、表紙が2つあり、横組み、縦組みで構成されるということが挙げられます。創刊時は、全て横書き(横組み)でした。しかし、俳句を掲載するようになり、部分的に縦書き(縦組み)で掲載するようになりました。その後、横書き、縦書きが混在していましたが、縦書きで掲載する記事も増えてきたため1972年1月号から横書きと縦書きを分けた形式になりました。現在、横組みでは、RI関係の記事、特集、ロータリーに関する理解を深める記事を中心に取り上げています。今年度から、ロータリークラブ・地区の活動を紹介するロータリーアットワークを横組みの掲載に変更しました。縦組みは、読者のエッセ



一、俳句など趣味のコーナー、知識が広がる講演や卓話の要旨、など会員同士の親睦を深められるような記事を掲載しています。続きまして「ロータリーの友」発刊に至る経緯についてお話しさせていただきます。「ロータリーの友」発刊に至るいきさつに少し触れさせていただきます。1952(昭和27)年4月25日、大阪市で開かれた地区大会では、次年度(1952-53年度)から日本が2つの地区に分割されることが決定していました。それまで一つの地区としてまとまっていた日本のロータリアンが2地区に分かれるわけですから、寂しさと期待の入り交じった雰囲気が当時の人たちにはあったようです。そのようなロータリアンの気持ちから、2地区になってからも連絡を緊密にするため、共通の機関誌の創刊が企画され、両地区の将来的な交流を図るために創刊しました。日本の公式機関誌「ロータリーの友」は1953年(昭和28年)1月に創刊されました。創刊当初は3300部、本年2023年1月に創刊70年を迎え発行部数は23年6月号で88,100部、70年経ち創刊号の27倍となりました。「ロータリーの友」の名前は岐阜クラブの遠藤健三氏の発案であり、その由来は当時の女性雑誌「主婦の友」にあやかって命名されたと言われております。創刊号以後定価50円、1954年1月号から1962年まで定価100円、1963年1月号から1974年まで定価110円、1975年1月号から定価200円、そして2022年7月号から275円(税込)に改定されております。ロータリーの友の購読は、ロータリアンの三大義務である「例会の出席」「会費の納入」「ロータリー雑誌の購読」の1つであります。ロータリーの友の記事は国際ロータリーRIからの情報並びに特別月間に関する特集といった公式情報の掲載、また日本各地のクラブ・ロータリアンのどのような活動をしているか等紙面上での交流の場となっております。9月号の主要記事はロータリーの友月間「友」が創られるまでが掲載されておりますので、是非お読みください。最後にロータリーの友編集委員会の願いをお話致します。友が面白い、面白くないという発言があることに對し、ロータリーの雑誌として友の編集委員会は、ロータリアンひとり一人のためのロータリーについての広がりや深まりのための、いわばロータリー活動の視点からのおもしろさの有無です。それゆえにゴシップや漫画を多用することなく、歴史小説読み物の連載も友は組みしません!あくまでロータリアンへの必要なまた有用な情報の提供とロータリーライフをより深めてもらうためのまたクラブがRIと直結している認識のための必要な媒体であることをご理解ください。今回この原稿を作成するにあたりネット検索から公式HP並びに各クラブの記事を参照させていただきました。Face Bookでも情報発信されておりますので「ロータリーの友」と検索してご覧ください。最後に「ロータリーの目的」を推進し、ロータリアンの親睦を育む役に立つ雑誌を目指します。今後ともご購読ご愛読をよろしく願います。

◆今後の例会日程

9/15(金)	ゴルフ例会 諏訪湖カントリークラブ
9/22(金)	準法定休日
9/29(金)	前年度決算、前年度予算
10/6(金)	クラブフォーラム 米山月間